

キャラボク イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc. var. *nana* Hort. ex Rehder

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2008.8.25 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では大山と氷ノ山の山頂部に隔離的に自生する。特に大山の群落は分布の南西限にあたり、しかも規模が大きい。

■**特徴**：多雪地の山地に生育する常緑の針葉低木。基本種のイチイに比べて、幹が匍匐し、幹は斜上し高さ1-2.5 m。多分枝する。冬季には積雪保護が必要とされる。雌雄異株。葉はらせん状につき線形で、長さ1-2 cm。花は腋生し緑黄色。果実は仮種皮が種子をつつみ、赤熟する。大山では山頂部にて純群落状となるが、氷ノ山ではチシマザサの大群落の中に個体が点在する。

■**分布** 県内：大山、氷ノ山。 県外：本州日本海側の山地に点在。

■**保護上の留意点**：岩崖地の自然植生の保護と採取禁止。

■**特記事項**：国指定天然記念物「大山のダイセンキャラボク純林」、国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県の県木

■**文献**：74.

執筆：永松 大

マルバオモダカ オモダカ科

Caldesia parnassiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2002.9.4 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内で確認されているのは1カ所のみ、ため池管理・環境の変化で絶滅の危機にある。

■**特徴**：低地の浅水深のため池・池沼に生育する1年生草本。葉は根出し、葉柄の長さは水深により変化して、葉は水面に出る。葉は円心形で長さ5-13 cm、幅5-9 cm、基部は深心形になる。枝を3個ずつ輪生する輪生総状花序を伸ばし、8-9月に白色の花をつける。果実は楕円形で長さ3 mm、背面に2個の溝がある。水中にある花穂にはむかごができ、無性繁殖することがある。

■**分布** 県内：鳥取市。 県外：本州、四国、九州、奄美。中国、インド、オーストラリア、マダガスカル。

■**保護上の留意点**：ため池管理。水辺植生の保全管理。

■**文献**：—

執筆：永松 大

アギナシ オモダカ科

Sagittaria aginashi Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2008.7.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の山間湿地に点在し、分布も少ない。農地の減少で湿地を管理する必要がなくなり、生育環境の悪化が顕著である。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生育する多年草。葉は根出、細長いやじり形、裂片は細長く先端は微小球状になる。走出枝はない。花期は8-10月、白色、花茎は50-80 cmのものが多く、輪生総状花序。根元に小球茎をつける。県内では水田には見られない。水田や用水路に多産するオモダカは葉形の変異が多くまぎらわしいが、裂片の先端がとがること、走出枝の先端に塊茎ができることで区別する。アギナシは、自生地でアシなどの大型の草本、周辺の灌木が繁茂して減少傾向にある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山間湿地の保全管理、たたら跡の湿地保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヤナギスブタ トチカガミ科

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



鳥取県博所蔵標本：智頭町 1967.8.16 綾木 実

■**選定理由**：1967年採集の記録があるが、それ以後県内ではみつかっておらず、絶滅したものと考えられる。

■**特徴**：水田やみぞにはえる沈水性の1年生草本。水中に茎を伸ばし、よく分枝する。葉は互生し線形で長さ3-5 cm、わずかに鋸歯があり、先端は鋭頭。県内では1967年に智頭町で採集された標本が残されているが、それ以後は確実な生育記録がない。今改訂でも確認情報はなかった。観賞用の水草として水槽で栽培されることがあり、採取圧も存在する。

■**分布** 県内：絶滅。 県外：本州， 四国， 九州， 沖縄。 東アジア。

■**文献**：28。

執筆：永松 大

ミズオオバコ トチカガミ科

Ottelia alismoides (L.) Pers.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2010.8.17/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：河川， ため池のコンクリート化などで生育環境が悪化し， 局所的に孤立している。管理上の問題もあり， 減少が顕著である。

■**特徴**：水田や池沼， 河川などの浅い水中に生育する1年生水生草本。葉は根生する。葉身は柔らかく， 披針形から広卵形， 縁に波状のしわがあり， 顕著な5-6本の平行状脈がある。葉身長は水深に対応して10-25 cm。花期は8-10月， 白色-淡紅色， 径約3 cmの花を水面上に咲かせる。米子市浦津「ほれこ川」に群落がある。米子駅南の水路にも1.5 m×5 mの群落があり， 保全の必要性を周知したつもりだったが， 2010年6月の水路清掃により除去されて少数が残るだけとなった。保全には関係者の理解と協力が不可欠である。

■**分布** 県内：米子市， 伯耆町， 南部町。 県外：本州， 四国， 九州。

■**保護上の留意点**：生育地の把握， 関係者への絶滅危険性の啓発。水路， 川などの改修・清掃の際の生育環境保全。

■**文献**：10。

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ツツイトモ ヒルムシロ科

Potamogeton pusillus L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2006.6.30/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では， 中海沿岸にのみ生育。減少が顕著である。

■**特徴**：汽水域に多いが， 湖沼， 河川などにも生育する繊細な沈水植物。葉は線形， 長さ2-5 cm， 葉脈は明瞭， 托葉は筒状， 柔らかく形状がくずれやすい。花穂は上下2段にわかれてつく。花茎の長さは1.5-2 cm。イトモとは托葉で区別するが， 形が残っている開葉前に確認することが必要。県内では海岸付近の湖沼・湿地・河川に生育している可能性があり， 特に汽水域の開発・埋め立て地では， 生育状況を調査する必要がある。

■**分布** 県内：米子水鳥公園。 県外：北海道， 本州， 四国， 九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然な水辺の再生と保全。水質汚濁の防止。

■**文献**：34,36,37。

執筆：神谷 要

リュウノヒゲモ ヒルムシロ科
Potamogeton pectinatus L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子水鳥公園 2001.6.28 / 撮影：神谷 要

■**選定理由**：県内では米子水鳥公園にのみ生育が確認されているが、近年衰退が著しく、絶滅が心配される。

■**特徴**：海岸付近の汽水域に多いが、湖沼、河川などにも生育する多年生沈水植物。水中茎は上部で多分枝する。葉は針状、長さ10–15 cm、基部は托葉と合着、葉鞘となり葉をだく、全縁。葉の先端は、尖っており鋸歯はない。水中茎は細く葉と区別しづらい。花期は5–9月、花穂は伸びて水面に横たわる。種子は花穂に10–20個。7月頃より塊茎が地下茎の先端に形成され、水鳥のえさとなる。塊茎は類似植物との識別に有効。米子水鳥公園のつばさ池に大群落を形成していたが、近年衰退が著しい。

■**分布** 県内：米子水鳥公園。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然再生と保全。水質汚濁の防止。

■**文献**：17,34,35,36,37.

執筆：神谷 要

イトモ ヒルムシロ科
Potamogeton berchtoldii Fieber

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取県博所蔵標本：東郷池 1953.8.4 土井 進

■**選定理由**：分布について十分な情報がなく、自生地が失われている可能性がある。

■**特徴**：湖沼水路ため池に生育する葉の細い沈水植物。水中茎の断面は楕円。葉は線形無柄鈍頭で、長さ2–6 cm、幅0.7–1.5 cm。花は、二段に分かれ、花穂の長さは3–5 mm。果実は、長さ2–2.5 mm、幅1.5 mm。ホソバミズヒキモなど、近縁のヒルムシロ類との判別は難しいが、秋になると先端に1.5–2.5 cmの比較的大きい殖芽を付けることから同定できる。県内での確認例は少ないが、全国の河川・止水域に広く分布する植物のため、県内の分布調査が必要である。

■**分布** 県内：米子水鳥公園。 県外：本州，四国にまれ。東日本では記録が多い。

■**保護上の留意点**：生育地の調査と確認。水質汚濁の防止。

■**文献**：—

執筆：神谷 要

カワツルモ カワツルモ科
Ruppia rostellata (J.Agardh) K.Koch

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子水鳥公園 2006.6.30 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：海岸近くの海痕湖や水溜りに生育することが多いが、県内からの報告はほとんどない。

■**特徴**：広い範囲の汽水環境（塩分濃度0.5–77psu）の止水環境を生育地とする多年生沈水植物。植物体は、繊細で葉は幅1 mm以下、長さ5–10 cmで互生。花序のある節は対生し、葉の基部はふくらみがある托葉となっている。花期は5–10月。花序は、特徴的な散形花序だが、花序がないときはリュウノヒゲモと誤同定されることがある。葉先端部に鋸歯があることからリュウノヒゲモと識別できる。また、花茎は、2–10 cmで、ねじれていても数回程度である。近似種に花茎がコイル状になったネジリカワツルモがある。

■**分布** 県内：米子水鳥公園，鳥取市青谷町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然な水辺の再生と保全。水質汚濁の防止。

■**文献**：—

執筆：神谷 要

イトクズモ イトクズモ科

Zannichellia palustris L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子水鳥公園／撮影：神谷 要

■選定理由：県内では米子水鳥公園でのみ確認。

■特徴：汽水性の繊細な沈水植物。海岸沿いの湖沼や干拓地の入り江などに生育する繊細な水草。地下茎から水中茎が伸びる。葉は対生-輪生，線形で長さ3-7 cm，全縁。花は単性花，雄花と雌花は同一の葉腋に並んでつく。果実は両端に突起のある三日月状，背面に歯牙，長さ5 mm，ほとんど無柄。果実は極めて特徴的。全国的に希少化が進んでいる。

■分布 県内：米子水鳥公園。県外：北海道，本州（東北から関東），中国地方，沖縄。

■保護上の留意点：汽水域の自然な水辺の再生と保全。水質汚濁の防止。

■文献：33,36,37.

執筆：神谷 要

ヒメイバラモ イバラモ科

Najas tenuicaulis Miki

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IA類 (CR)

No Photo

■選定理由：全国的に絶滅寸前の植物で，県内に1カ所自生地があるとされている。ただし近年の確実な確認記録はない。

■特徴：湖沼などに生育する繊細な1年生の沈水植物。茎は硬くまばらに分枝して，ときにトゲをつける。葉はきわめて少数で長さ約2 cm，幅1 mmほどでまばらな鋸歯がある。近縁のイバラモに類似するが，より葉が細い。茎の皮下細胞が本種は1層，イバラモは2層。花期は7-10月。採取防止のため自生地は公開されていないが，継続的な生育調査が望まれる。

■分布 県内：確実な自生地なし。県外：確実な自生地なし。

■保護上の留意点：厳重な採取防止が必要。池の清掃，水草管理には専門家の立ち会いが望ましい。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■文献：15.

執筆：永松 大

ホンゴウソウ ホンゴウソウ科

Sciaphila nana Blume

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市気高町(果実) 2009.10.10／撮影：谷亀高広

■選定理由：2009年，県内の1カ所で新規確認。生育環境の変化に弱く，絶滅の危険性が高い。

■特徴：緑色葉を持たない菌従属栄養植物。特定のアーバスキュラー菌根菌から養分を得て生育する。地上部の高さは3-7 cm。7-10月にかけて紫褐色の花茎を伸ばし，枝先に3-15ほどの花を咲かせる。花茎上部に雄花が，下部には雌花が咲く。常緑広葉樹林のほか，コナラ・シラカシ林やマダケ，モウソウチク林にも見られ，薄暗く常に湿った林内を好む。植物体が小さく目立たないため，なかなか発見できない。

■分布 県内：鳥取市気高町。県外：本州（関東以西）から沖縄。

■保護上の留意点：自生する林分の環境保全。唯一の自生地はナラ枯れにより林分環境が激変していることから，絶滅が危惧される。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種

■文献：103.

執筆：谷亀高広

ギョウジャニンニク ユリ科

Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2009.6.15 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での自生地は1カ所のみ。ここ5年ほど毎年観察が行われているが、全体に個体群が衰退ぎみであり、今後が心配される。

■**特徴**：深山の林床に群生する夏緑性の多年生草本。茎の下部に大型で長楕円形の葉を2-3枚つける。葉鞘は長く茎を抱く。高さ50 cmほどの茎の茎頂に1個の散形花序をつけ、6月ころ白色の花を咲かせる。強いネギ臭があり、鱗茎は食用になるため採取される。自生地は人里から離れた山中であり、植栽起源の可能性は低い。ここ2-3年、開花する個体が著しく減少し、2009年は4個体のみであった。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道、本州（近畿以北）。北東アジアからシベリア東部。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然林保護と保全の啓発。採取防止。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：永松 大

ツバメオモト ユリ科

Clintonia udensis Trautv. et C.A.Mey.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2008.6.8 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内での自生地は1カ所のみ。複数の調査努力によっても現存個体数は数個体のみ。採取圧もあり、いつ絶滅してもおかしくない。

■**特徴**：通常は亜高山帯の針葉樹林下に生育する多年生草本。県内では氷ノ山山頂部に生育。根出する2-5枚の葉をつけ、長さ15 cmほどで長楕円形。やや肉厚。高さ30 cmほどの花茎を伸ばし、先端に単総状花序をつかって白色の花をつける。写真の個体はやや小型で典型的な個体よりも花の数が少ない。この個体は後日見つからず、盗掘されたとみられる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道、本州（近畿以北）。北東アジアからシベリア東部。

■**保護上の留意点**：氷ノ山の自然植生保護。厳重な採取防止と保全の啓発。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種、分布西限

■**文献**：54.

執筆：永松 大

カタクリ ユリ科

Erythronium japonicum Decne.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市鹿野町 2005.4.29 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では1000 m級の山岳の山頂部を中心に数カ所に群生がみられる。草原や明るい樹林下を好むが、下層植生の繁茂が生育に悪影響をおよぼしている場所がある。

■**特徴**：ブナ帯域の草原や明るい樹林下に群生する多年生草本。春先、林床が明るい季節に葉を広げ、開花結実する春植物。成熟した個体は2枚の葉を広げ、4月頃紅紫色の花をつける。花被片6枚、陽光により反り返る。県内の自生地は山頂部がほとんどだが、岩美町では、標高300 mほどの山腹斜面に自生。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市鹿野町、倉吉市関金町、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自然林の保全、下層植生とくにササ類の植生管理。踏みつけ、採取の防止。

■**文献**：22.

執筆：永松 大

キバナノアマナ ユリ科

Gagea lutea (L.) Ker Gawl.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市佐治町 2010.4.4/撮影：松本 綾

■**選定理由**：近年の農村人口の減少や高齢化による果樹園放棄などの里山の環境悪化によって、個体数が激減している。

■**特徴**：山野に生育する多年生草本。春植物。県内では千代川支流中流域に特異的。明るい北向き斜面の果樹園内や畑の畔などに単生する。下草が刈り払われ、明るい場所に生育する。鱗茎の外皮は黄褐色。根出葉は、線形・軟弱でやや厚く、粉白色で長さ10–20 cmになる。4月、花茎の頂に4–10個の花が散形状につく。花被片は黄色で6裂、裂片は披針形、径1–2 cm。果実は偏球形、3稜がある。ヒメアマナは、花被片が径1 cm以下で、鱗茎の外皮が黒褐色であることから区別できる。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市佐治町。県外：北海道、本州（中部以北）。朝鮮、中国、シベリア東部、ヨーロッパ。

■**保護上の留意点**：果樹園付近等、自生草地の保全管理が必要。

■**文献**：40。

執筆：松本 綾

ノシラン ユリ科

Ophiopogon jaburan (Siebold) Lodd.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



湯梨浜町 2010.9/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の自生地は1カ所のみ。現在のところ生育は安定しているが、観賞用に需要があるため、採取に注意が必要。

■**特徴**：海岸近くの林の中に生える多年生草本。葉は線形で長さ30–80 cm、幅7–15 mm。花茎は30–50 cmで扁平、花期は7–9月。白色の花を密に下向きにつけ、種子は青色に熟す。ヤブランに似るが、ヤブランの仲間は種子が黒く熟することで区別できる。ここにあげている湯梨浜町のノシランは、状況からみて自生と考えられる。

■**分布** 県内：湯梨浜町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：草刈りなど植生管理。地元への啓発。

■**文献**：—

執筆：磯江茂秋

タケシマラン ユリ科

Streptopus streptopoides (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *japonicus* (Maxim.) Utech et Kawano

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



扇ノ山 2005.5.29/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中部地方以北の亜高山帯に生育し、県内では扇ノ山上部に隔離分布する。登山道刈り払いによる衰退が懸念されるが、過去10年の状況は安定していたため、今改訂ではⅠ類からⅡ類に変更した。

■**特徴**：扇ノ山山頂部の山道端に生育する多年生草本。地下茎は横走する。茎は高さ20 cm程度、中部で2分枝するものが多い。葉は互生、羽状複葉、卵状披針形、鋭突頭、基部は円形–くさび形、無柄。花は5–6月、淡赤褐色、葉腋に1花をつける。花被は披針形で反り返り、長柄で垂れ下がる。腋果は赤く熟す。同所にチゴユリが見られるが、チゴユリの茎は単生まれに分枝、葉は卵状長楕円形、花は茎頂に1個で白色、といった点で識別する。

■**分布** 県内：扇ノ山。県外：本州（中部以北）、四国（剣山）。

■**保護上の留意点**：扇ノ山山頂部の自然植生保護。登山道整備時に注意。

■**文献**：23,24。

執筆：坂田成孝

ハナゼキショウ ユリ科

Tofieldia nuda Maxim. var. *nuda*

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



鳥取市 2008.8.13/撮影：松本 綾

■**選定理由**：現状は県内東部の地域で、数個体が確認できるのみ。愛好家による採取圧もあり、絶滅に瀕している。

■**特徴**：山地の湿潤な岩場に生育する小形の常緑多年生草本。葉は根出し、線形で長鋭突頭、全縁、長さ5–20 cmである。花は7–8月に、花茎の上部に交互に総状に多数咲く。花柄は長い。花茎は長く突出し、小形葉を2–3枚つける。セキショウに似た葉姿で、白い花が数多く咲くことが和名の由来。類似のヒメイワショウブは葉縁に微細突起がある。イワショウブは、花茎が長く苞に3個ずつ咲く点で区別。自生地では貧弱な個体が数個体生育するのみで、周辺にも生育は確認できていない。

■**分布** 県内：若桜町、岩美町、鳥取市。県外：本州（関東以西）、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止、周辺一帯の自然環境保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：松本 綾

チャボゼキショウ ユリ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *kondoii* (Miyabe et Kudo) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



大山町 2010.8.10/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が大山の一部に限られており、生育本数も少ない。以前は、山頂草原にも自生していたという記録もあるが、現在では見あたらない。

■**特徴**：山地から高山の岩上などに生育する多年生草本。大山の標高1500 m以上の風衝草原に草丈の低いイワカガミなどと混生している。花期は8月上旬。細長い葉の間から7–10 cmの花茎を伸ばし白色の花をまばらにつける。葯の色は紫色を帯びる。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：風衝草原が風により浸食が進んでおり生育環境が悪化。また登山者による登山道の荒廃が進行して生育環境が悪化している。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：5,6,104.

執筆：矢田貝繁明

イワショウブ ユリ科

Tofieldia glutinosa (Michx.) Pers. subsp. *japonica* (Miq.) T.Shimizu

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



大山 2008.8.25/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内での自生地は大山の一部に1カ所のみ。生育本数も少なく絶滅のおそれが強い。

■**特徴**：亜高山の湿原にはえる多年生草本。草丈は20–30 cm程度。県内では大山の標高1000 m以上の風衝草原に生育する。自生地は岩場斜面で、上部からの雨水により涵養されているものと思われる。花期は8–9月。花茎の先に白い小さな花が多数咲く。蒜山、比婆山の集団とともに、種内の分布西限集団のひとつ。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州（主に日本海側）。

■**保護上の留意点**：採取防止。自生する草原の自然植生維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

タマガワホトトギス ユリ科

Tricyrtis latifolia Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山 2009.7.18/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内での生育地が大山，三国山，氷ノ山の一部の谷間に限られており，生育個体数も少ない。初版時から顕著な減少はなく，確認地も増加したため，今改訂ではⅡ類に変更した。

■**特徴**：県内では，ブナ帯の深い渓谷沿い急斜面，しばしば岩場で上方から水がしたり落ちるような場所に生育する多年生草本。茎は斜上し高さ30–100 cm，葉が互生して羽状に配列する。基部は深心形で茎を抱く。花は7–9月，黄色で紫褐色の斑点がある。花序は葉腋につく。氷ノ山では登山道維持の草刈りにより本種が刈り払われることあり，注意。

■**分布** 県内：若桜町，三朝町，大山町。県外：北海道，本州（中部以北），九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。渓谷沿い自然植生の保護。刈り払い注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：永松 大

バイケイソウ ユリ科

Veratrum album L. subsp. *oxysepalum* (Turcz.) Hultén

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2008.6.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：生育地が不安定なため，生育地の保護が必要。県内では標高700–1500 mの高標高地に局所的に生育する。

■**特徴**：山地の湿地や土壌堆積地などに群生する大型の多年生草本。茎は中空で太く，1 mに達する。茎の中ほどの葉は長さ15–30 cm。楕円形。平行脈顕著。基部は鞘状。花期は7–8月。緑白色。花柱は3本あり外にまがる。総状花序の集った円錐花序をつける。有毒。若芽はギボウシ類と類似，生育場所も同じような環境なので要注意。和名は花をウメの花，葉をケイランに見立てたもの。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，若桜町，智頭町，三朝町，江府町，日南町。県外：北海道，本州。アジア東北部。

■**保護上の留意点**：自生地は国立公園や国定公園区域内だが林道の開設などには注意を要する。湿地や渓谷の自生地の植生保護。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

アオヤギソウ ユリ科

Veratrum maackii Regel var. *parviflorum* (Maxim. ex Miq.) H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2009.8.11/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地が大山に限られ，高標高域が主な産地で希少性が高い。

■**特徴**：大山山頂部周辺の草原に生育する多年生草本。高さ40–80 cmになる。葉は長楕円形で長さ20–30 cm。鋭頭で基部は鞘状に茎をだく。夏，径1 cmの黄緑色の花を円錐状につける。和名は，花の色と葉を柳に見立てたもの。類似種のシュロソウは花が暗赤紫色で，アオヤギソウと同じような場所に，より多く生育する。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道，本州。

■**保護上の留意点**：大山自然草原の植生保護。

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

ヒメナベワリ ビャクブ科

Croomia japonica Miq.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2010.6.14/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、スギ人工林内でシダ類などと混生するが、自生地はきわめて限られており、個体数も少ない。

■**特徴**：山地の林床に生育する暖帯性の多年生草本。茎は上部で斜上し、高さ30–60 cm。葉は互生し羽状配列、長楕円状心形、5–9個、やや光沢があり平行脈が顕著。花は黄緑色で、6月頃葉腋に1–2個つける。初版で確認されていた場所では今回見つからず、別の場所で自生を新たに発見。県内が種の分布北限である可能性が高い。

■**分布** 県内：日南町。県外：中国地方、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地スギ林の伐採など急激な環境変化の防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

オオキツネノカミソリ ヒガンバナ科

Lycoris sanguinea Maxim. var. *kiushiana* (Makino) Makino ex Akasawa

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2010.8.5/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：日当たりのよい低山の林縁や道ばたの草地に自生するが、数は多くない。草刈りが放棄された場所が多く、今後が心配される。

■**特徴**：低山の林縁、道路沿いなど日当たりのよい場所に生育する多年生草本。鱗茎をもつ。葉は春開葉し、夏には消滅する。広線形で幅1–2 cm。花期は8–9月、葉が枯れたあとに花茎が素早く伸張して、5花ほどが散形状につく。花被片は橙色。基本種のキツネノカミソリと比べ、雄しべが花被片より長く突き出すのが特徴。目立つ花だが、希少種としての生育情報は少ない。

■**分布** 県内：八頭町、鳥取市河原町、湯梨浜町、三朝町、倉吉市、琴浦町、日南町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：人里環境の適切な管理。

■**文献**：—

執筆：永松 大

コキンバイザサ キンバイザサ科

Hypoxis aurea Lour.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2010.6.11/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内で自生が確認されているのは、年2回の草刈りが行われているため池畔の湿地のみ。個体数少なく、絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：草地に生える多年生草本。葉は根生し外側のものは短く、内側のものは線形で長さ20–30 cm、細長毛を散生する。花茎は葉腋からでて長さ10 cm、1–2個の黄色の花を5月から6月に咲かせる。全体に白い毛が多く、特に外花被片の先端は目立つ。

■**分布** 県内：米子市。県外：本州（宮城県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈り管理の継続。草刈りが行われなくなると、他の植物に被圧されて絶滅のおそれがある。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ミズアオイ ミズアオイ科

Monochoria korsakowii Regel et Maack

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



倉吉市 1995.8.21/撮影：田中昭彦

■**選定理由**：10年ほど前までは県内2カ所で生育が確認されていたが、その後どちらの場所でも観察できなくなり、現在まで見つかっていない。絶滅した可能性がある。

■**特徴**：平野部の用水路やため池、河川の停滞水域に生えるやや大型の1年生抽水草本。高さ20–40 cm。根生葉は長柄があり、長さ、幅ともに4–15 cm、厚くてつやがある。ナギと呼ばれ、昔は葉を食用としたと言う。岩美町と倉吉市の自生地では何度も調査が行われたが、2005年以降は確実な生育確認がない。以前は河川の下流域に広く生育していたと考えられるが、除草剤や河川改修により全国的に希少化している。

■**分布** 県内：確実な生育地なし。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水辺環境の保全。河川改修に注意。

■**文献**：—

執筆：磯江茂秋

ヒオウギ アヤメ科

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



船上山 2011.8.2/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：花が美しいため栽培され、これが逸出したものもあるが、自生と考えられる集団が県内に少数生育する。

■**特徴**：山地の草原に生える多年生草本。栽培逸出も多いが、もともと山野に自生してきた。高さ60–100 cm。葉が扇状に広がる。花期は8–9月、花被片はオレンジ色で目立ち、内面に暗赤色の斑点がある。楕円形で長さ3 cmほどの蒴果ができ、これが裂開して黒く光沢のある種子が露出し、「ぬば玉」と呼ばれる。以前から船上山にあることが知られており、2010年には5本の生育が確認された。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州、四国、九州。朝鮮、中国、インド。

■**保護上の留意点**：栽培品の野外逸出の防止。

■**文献**：—

執筆：永松 大

ノハナショウブ アヤメ科

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2007.7.8/撮影：野津 昭

■**選定理由**：湿地や草地の開発や遷移により自生地が減少し、孤立化が進んでいる。

■**特徴**：湿地や湿った草原に生える多年生草本。高さ50–80 cm。葉は互生し剣状広線形。花期は6–7月。紅紫色で外花被片は広卵形、基部に黄色の筋が入る。園芸品種の花菖蒲は本種をもとに改良されたもの。低山の日当たりの良い湿地周辺部、山際の水田土手、休耕田やため池周辺に見る。有毒で牛馬や野ウサギは選択的に食べのこす。カキツバタは花色が青紫で中肋は目立たない。アヤメは陸生で花被片に網目状の紋様が顕著。

■**分布** 県内：三朝町、倉吉市関金町、大山町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地の湿原や湿地環境の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：野津 昭（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）